

## 第2回地域説明会

### インターネット経由で寄せられたご意見など

#### (1)市民への周知や説明不足

説明会が始まった時点では計画は既に決まっており、何のため意見を聞いているのかわからない。計画が決定する前に、説明会や他の方法で市民の意見を聞いて欲しかった。パブリックコメントで出た意見についても、全く取り入れる気がないような返答ばかり。もう一度市民の声を聞き、検討し直すべき

ホームページ等の IT 機器での情報は、特に高齢者には入っていきません。答申が出たあと、計画案を出す前に、もっと丁寧に何度でも意見の聴き取りをしていただきたかった。この問題に対する、市および教育担当部局の「姿勢」に疑問を感じます。「地方分権論議」時の「地方6団体」の要請によって、「説明責任」「情報開示・透明性」「住民参加・協働」などが国・県・自治体の行政手法に導入された事実があります。本市ではそれを行っていません。答弁、質疑応答を聞くと、理解を求めようとする姿勢が感じられません。各種の意見を無視して、結論ありきの暴走を進めようとする姿勢にも思われます。(実際にも、10月12日はグループ討論を予定した)そこで、①この問題をどのような手順で検討するか全く示していません、②計画の内容が「大規模投資」に相応しい手順を踏んでいない、「構想」「基本計画」「実施計画」のいずれの段階かを踏まえ、論点ごとに合意形成すべきです。

周知に対する不満の声は多く、その反応から不足していたのでは無いかと思えます。

#### 回答

これまでいただいたご意見等を参考に、多様な周知方法で普及に努めております。今後とも多くの方々のご意見等もいただき、合意形成に向け対応して参ります。

#### (2)小・中学校の統廃合と地域の活性化、公共施設の配置の問題

親としては、子供の安全を考え、学校は出来るだけ近いほうが良いと思う。地域から学校がなくなれば、その地区に住もうとする若い人は少なくなり、ますますその地区は廃れていく。地域を守るためにも、学校をなくしてはいけないと思う

市内の小中学校の配置は、昭和の合併時から「地域の均衡に配慮」して、小中学校を配置してきました。陵東、陵南、陵西はそのバランスの遺産です。しかし、今回の案は、このような背景と経緯を顧みず、「学校が地域に支えられ、地域のコミュニケーションの核として機能している」ことを全く無視する内容です。(諮問内容でも、パブリックコメントの回答でも、このことを否定している)全国の市町村では、学校は地域存続の基本的事項として、地域住民と丁寧な議論を続けています。文科省の指針や手引きでも、「地域性や地域の事情を十分考慮して」としている。この検討内容では、市内の地域格差を助長する暴走です。市の少子高齢化対応への無策とともに地域の消滅にも結びつきかねません。だから、10月15日のような「引っ越す」意見が出たことを、真剣に考えるべきです。

回答
子どもたちのよりよい学習環境の構築を第一にしつつ、本計画をまちづくりの観点からも庁内各課と連携し、計画を進めてまいります。
(3)小学校を 2 段階で統合する場合に小学校と中学校とで統合が続くことによる子どもや保護者の負担増について
統合が続く学年が出る事を計画を立てるときに気づかなかったのでしょうか？子供のことを全く考えていない無謀なスケジュールだなと感じます。該当する子供がいない人にとっては、結局他人事なんだなとよく分かりました。この計画には納得できません
R8 年と R14 年の 2 段階統合には反対です。複式学級解消とは言え、児童保護者始め関係者にとって負担があります。そして、1 回目統合した学校は、どんなことを目標にして子どもを教育されるのかわからないです。「地域に根ざした教育」を大切にしてくださいなので、C 案に賛成です。
2 段階統合は、児童生徒及び父兄、地域の大きな負担です。回数の少ない、負担を軽減した内容にすべきです。
大きいと考えます。
回答
小学校と中学校で 2 回統合を経験する子どもの対応については現在検討中でございます。検討案については、第 2 回説明会資料の中にも掲載しております。統合は子どもにとって新しい出会いや多様な価値観に触れる好機であると同時に、ストレスも予想されますので、統合に関係するみなさまが安心して通学・新しい学校生活を送れるように、事前の交流やストレスが低減されるように準備を進めていきたいと考えております。
(4)中学校の「1 校案」に対して、「2 校案」の検討について
2 校案が良い。 12 から 18 学級が標準とされている。そこを標準とするにはそれなりの理由があるわけで、30 学級もの大規模学校ではデメリットが大きい。20 年後までをも見据えてと言うが、その間に通う生徒がなぜ犠牲にならなくてはいけないのか。20 年後のことはその時に考えて欲しい。
これについても、未就学児含め該当する保護者にアンケートをとって欲しい。
現在の中学校の PTA 役員の意見を聞いても、子供が統合に該当しない年齢であれば、結局他人事なのです。
たとえ 20 年待たずに再統合の可能性があっても、規模が大きすぎて生徒、教職員にかかる負担が大です。C 案に賛成です。
日本の教育制度は、明治維新以降は 2 校の競争体制の中で培ってきた歴史があります。これは堅持すべきでしょう。東大 VS 京大、東京高等師範 VS 広島高等師範、お茶の水 VS 奈良女、札幌農学 VS 大日本農学など。山形県内の市で、中学校が 1 校なのは一つもない。
2 校案にするべきだと思います。学区の偏りで人数が変わることは分かりましたが、それは中心部である陵東地区の過疎化を意味していると考えます。陵南地区に宅地造成を行い

中心部に廃墟が増えるよりも、既存中心部の建て替えや再開発を進めた方が文化と新築が集中・共存し、また周囲の田園風景・自然環境は守られる事で、魅力ある寒河江の町になると考えます。また、1校案の目安が50億で、2校案は1度の改築が大変との説明がありましたが、改築の範囲と費用が分かりませんでした。デジタル機器等は日進月歩ですぐ古くなることから、大型投資は控え、小型投資でアップデートしていく方が長い目で充実した設備を子供に提供し続けられるのではないのでしょうか。ご検討をお願い致します。

回答

本計画は、10年後、20年後のことも考えての計画となっております。それぞれの案について、ご心配もあるかと思いますが、対応策を提示して、不安を解消できるように努めます。

① どんな子どもたちを育てたいのか。(今後想定される学習環境など)

アイデンティティ(自己、主体性)をしっかりと備えた人物で、インターナショナルとグローバルに対応できる能力を備えていることが求められます。しかし、これを小中学校で築きあげるのは、指導者の能力が十分になれば不可能で、学校の入れ物で完成されるものではありません。小学、中学、高校の段階を踏んで、家庭、地域が一体とならなければ育ちません。基本的な素養を積み上げるしかありません。しっかり踏むべきです。その点では、インドネシアのジャカルタ日本人学校は、時間割が無く(毎週の授業割を作成)、担任の先生が自身の経験をもとに、国際性のある授業を展開していました。

昔から子供の教育の方向性は変わらないと考えています。教育として多少の改革は必要かもしれませんが、先生方が今まで長い事積み重ねてきた教育ノウハウも発揮できる現場であるべきだと考えます。子供をあまり実績の少ない研究・チャレンジ対象として扱ってほしくはありません。

回答

教育について、ご意見、海外の事例紹介ありがとうございます。今後の取り組みの参考とさせていただきます。

② いじめや不登校への対応について

無くして欲しいですが無くすことが難しい事も理解できます。起こった際の手厚い対応を期待します。

回答

いじめや不登校に関しては、各小中学校で、いじめ防止基本方針を策定し、未然防止、早期発見、適切な対応について明文化しております。スクールカウンセラーの配置など人員面での体制の強化や研修会を検討しております。また、いじめの早期発見と早期解消について努めて、少しでも不安が取り除けるように進めてまいります。様々なストレスが子どもたちの行動に繋がっていることを認識し、できるだけストレスの少ない、ストレスを軽減できる学習環境づくりに努めてまいります。

### ③ 複式学級について

西村山地区には昔から複式の学校がたくさんありました。メリットを大切にして教育できればと思います。

複式学級の対象父兄は、先生に適切に対応してもらっていると評価しています。

メリットもある中で絶対に無くさなくてはならないものでもないと考えます。

回答

複式学級の良さとしては、一人一人の様子を丁寧にみることができることや一人一人の役割があることが多い等があります。一方、表現力、思考力、また、友達のいろいろな考え方を聞いて、自分の考えを広めるという力の育成も必要とされています。今後とも、様々な面から検討していきたいと思います。

### ④ 特別支援学級について

受け入れ先、施設・設備は必ず必要だと考えます。また一般の学校に付随して設置され支援学級の必要が無い子供も知ること、多様性の理解につながるといった教育意義も大きいと思います。

回答

ご意見ありがとうございます。今後の取り組みの参考とさせていただきます。

### ⑤ 通学方法について

現在の学区でさえも、冬季間は特に中学校の近くには送迎の車がたくさんいます。これ以上学区の広い1000人規模の学校になったらどうなるのか考えて下さい。スクールバスなんて、本当に遠くから通う生徒だけですよね。送迎の自家用車+スクールバスなんて、渋滞間違いなしです。

徒歩や自転車圏内を可能な限り増やすべきと考えます。

回答

中学校用地を新しく選定する際には、徒歩または自転車での通学を基本とします。学校からの距離が遠いとされる地域には、スクールバスの運行を検討します。また、朝や冬期間は、交通渋滞も心配されます。経路や、出発時間、保護者の送迎等のルールなど細かいところまで気を配り、安全安心な登下校ができるように努めてまいります。

### ⑥ 統合前の準備について

### ⑦ 放課後児童クラブ（学童）について

### ⑧ 中学校の部活動について

今後地域に移行していくのであれば、中学校を1校にした方が部活動の選択肢が増えるというメリットはあまり関係ないのでは？1校案のメリットから消して欲しい。

回答

中学校の部活動については、国、県等の動きを踏まえ、来年度以降の部活動について検討を進めている状況です。今後の方針が決まりましたら、ご指摘の点についても改めて整理

する予定です。

⑨コミュニティ・スクールについて

⑩その他

小中学校の再編で重視すべきことと、再編後に対応できる事項（いじめ、不登校など）を体系立てて「検討案」を開示すべきである。また、財政・経済比較を示すなら、ハードとソフトの貨幣換算を検討案ごとに積み上げるべきである。

回答

ご意見ありがとうございます。次回以降の説明資料への追加を検討いたします。